

「大和小学校の大和浜棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

大和村立大和小学校

2 学年・人数

大和小学校 1年～6年（計5人）

大和村内 4小学校高学年児童（計10人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和2年7月～令和2年8月 夏休みの毎週水曜日（大和浜公民館）

令和2年10月20日～令和2年10月30日（本校校庭）

令和2年11月11日（水）（本校オープンスペース）

(2) 発表の日時・場所

令和2年11月1日（日）校内学習発表会（本校体育館）

令和2年11月11日（水）大和村小学校4校集合学習：高学年

（本校オープンスペース）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

大和浜棒踊り（やまとはまぼうおどり）

(2) 由来

明治35年に、医学の傍ら鹿児島で薬丸流の剣法、相撲、柔術、郷土芸能等、幅広く研究し技を磨いた井原甚四郎翁によって創始された。帰島の際、村の青年たちの風紀が乱れていることに心を痛め、なんとか志気を鼓舞し、礼儀を重んじさせ、規律正しい生活を送らせようと、自らが習得した棒踊りや相撲甚句を教えたことが、棒踊りの始まりと言われている。

(3) 構成等

棒踊りは、4人1組（普通4組編成）で踊る。3部構成になっていて、1部は、6尺棒同士で踊る。2部は、3尺棒と6尺棒に持ち替えて踊る。最後に3尺の鎌となぎなたで踊る。踊りが最高潮に達すると鎌となぎなたがかち合って、火花を散らすこともある。踊る人も真剣そのもので、また、見る人も手に汗を握り夢中になって見守るといふ、気合いの入った勇壮な踊りだ。

5 保存会や地域との連携の具体

7月に学校の役員会を開き、伝承活動計画について理解と協力を得た。夏休み前に、学校長や地域役員から保存会へ指導協力を依頼した。そして、夏休み期間中、毎週水曜日に大和浜棒踊り保存会（青壮年団）に指導していただいた。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

これまでは、大和浜集落の希望男児のみ練習に参加し伝承に努めてきたが、児童数減少に伴い、そのやり方では伝承が厳しくなってきた。

よって、今年度は、集落の女兒にも呼びかけ、練習に加わってもらった。

また、地域の伝統芸能であるにもかかわらず、由来や歴史などを知らず、体験したこともない児童がほとんどであったので、大和小学校はもちろんのこと村内の高学年全員で棒踊りについて学習する時間を教育活動の中に設け、由来や歴史を学び、棒踊りを踊る体験活動を組み込んだ。

棒踊りを体験的に知ることで、礼儀や規律、伝統の素晴らしさを学び、目上の人たちとの触れ合う中で、長幼の序を学ぶことができた。

7 取組の様子



【夏休み棒踊り練習の様子（大和浜棒踊り保存会・保護者指導）】



【4校合同集合学習での棒踊り練習】

【学習発表会での披露】

8 参加児童・保護者・保存会・教員等の感想・意見

<参加児童>

- 棒踊りを未来に残すためにも、下学年に教えながら練習を頑張っていきたい。
- 自分の集落に残る伝統芸能や伝統文化を引き継いでいくために、自分たちにできることを探して守っていきたいと思った。

<保護者・保存会>

- 子供たちと一緒に踊れて楽しかった。
- 島の良き伝統を今後も継承して行ってほしい。

<教員>

- 棒踊りを体験したことで、棒踊りの由来や歴史などに対する興味や関心が深まり、また、それに付随して、他の文化や伝統芸能の継承にも意欲的になってきた。
- 保存会や地域の青壮年団、保護者の方がとても協力的で、「地域みんなで子供を育てる」という教育文化が根づいていてありがたい。